

情報提供依頼（RFI）

Request For Information

基幹業務支援システムの次期システム構築及び AI 駆動開発 の適用に係る情報提供依頼（RFI）

【2026 年 10 月 20 日（火）】

独立行政法人国際協力機構 情報システム部 IT 企画課

1. 背景

独立行政法人国際協力機構（以下「JICA」という。）では現在、情報システムの全体最適化及び関連業務合理化に向けた検討を進めており、その一環として、基幹業務支援システム群及び共通基盤の統合・再構築（以下「次期システム構築」という。）の具体化を進めています。

現行の基幹業務支援システム群は、個別に構築された複数のシステムと共通基盤で構成され、業務間の重複入力、システム間連携の複雑化、運用保守コストの高止まり等の課題を抱えています。JICA はこれらの課題に対し、業務ロジックの統合と UI（メニュー）の分離を基本とするシステム統合、リファレンスアーキテクチャに準拠した再構築、共通基盤の更改、及び AI 技術を活用した開発（以下「AI 駆動開発」という。）の適用を構想しています。

本案件の具体化及び今後の調達方針を検討するための参考として、市場動向や技術的可能性等に関する情報提供をお願いします。

2. 目的

本 RFI は、

- ・市場状況の把握（想定する開発単位ごとの参加しやすい形の確認）
- ・AI 駆動開発の適用実績の確認（AI 駆動開発の適用実績・直面した課題及び実現方式の選択肢の確認）
- ・JICA の一定規模のシステムへの対応可能性の確認（同規模の基幹システム刷新の実績、想定する期間（2030 年度頃までの順次リリース）での実現の見通しの確認）
- ・想定されるリスクの把握（複数システム開発の並走・切替集中に伴うリスクの確認）

を目的として実施するものです。特に、AI 駆動開発の実績を有する事業者が、JICA の一定規模のシステムにも対応できるかを確認することを主眼としています。

3. 案件概要（構想段階）

（１）**対象範囲** JICA の基幹業務支援システム（別紙 1「現行システム対象一覧」参照）。なお、現行の共通基盤（共通 DB 等）は、API 連携基盤・マスタ管理・データ基盤・認証基盤・セキュリティ監視から成る次期共通基盤として別途更改する予定です。次期共通基盤及び分析・AI 活用基盤は、本 RFI で情報提供をお願いする範囲には含みません（各開発単位は次期共通基盤の利用を前提とします）。

（２）再構築の基本方針（現時点の構想）

- ・業務ロジックを統合し、UI は業務別メニューとして実装するシステム統合
- ・統合システムと密に連携するシステムの、リファレンスアーキテクチャ準拠での再構築
- ・共通基盤の更改（共通 DB を介した密結合から、API 連携を前提とした疎結合への転換）
- ・AI 駆動開発の適用

（３）**想定する開発単位（案）** 複数の開発単位に分割して発注することを想定しています。各開発単位の名称・範囲は、別紙 2「事業概要及び想定する開発単位（案）」（限定公開）にて提供します。なお、開発単位・調達範囲は本 RFI の結果も参考にしつつ、今後検討する予定です。

（４）**想定スケジュール（案）** 2027 年度に複数システムの要件定義が並走し、2029 年度に主要システムの切替が集中する想定（別紙 6「想定スケジュール（線表案）」（限定公開）参照）

（５）**想定期間** 要件定義～構築：2027 年度～2032 年度（想定。経理関連のシステムの切替時期は幅をもって想定）

（６）別紙一覧

別紙	資料名	提供方法
別紙 1	現行システム対象一覧	本ページに掲載
別紙 2	事業概要及び想定する開発単位（案）	限定公開
別紙 3	対象システム機能一覧（大分類）	限定公開
別紙 4	規模指標一覧（現行システム）	限定公開
別紙 5	非機能要件の水準（概要）	限定公開
別紙 6	想定スケジュール（線表案）	限定公開
別紙 7	JICA について及び本プロジェクトの取り組み全体像（PDF）	限定公開
別紙 A	回答様式（Excel）	限定公開

「限定公開」の資料（別紙 2～7 及び別紙 A「回答様式」）は、秘密保持契約を締結した事業者に提供します。本 RFI へのご回答は、秘密保持契約を締結し、限定公開の資料の提供を受けた事業者に限り受け付けます。ご希望の場合は、【2026 年 10 月 30 日（金）】までに「6. 提出方法」記載の問い合わせ先まで電子メールにてご連絡ください。秘密保持契約書の様式は電子メールにて送付し、資料は GIGAPOD にて配布します。

4. 情報提供をお願いしたい事項

以下の問 1～問 16 について、別紙 A「回答様式」（限定公開）にご記入ください（設問は別紙 A のシートの順に並んでいます）。**「★」を付した設問（8 問）は、ご回答いただく場合に必ずご記入をお願いする設問です。その他の設問は、回答可能な範囲で構いません。開発単位ごとの設問（問 11～問 16）は、回答できる開発単位についてご回答ください（1 つからで構いません。複数の開発単位へのご回答を歓迎します）。**

（1）貴社全体についての設問（別紙 A のシート 2～4）

問 1★ 他機関（中央省庁・独立行政法人等）における同規模の基幹システム刷新・統合の類似事例のうち、貴社が関与された案件の概要（規模・期間・体制・役割）

※本 RFI でいう「AI 駆動開発」は、生成 AI 等の AI 技術を、要件定義から移行までの開発工程の成果物（設計書、プログラム、テストケース等）の作成に組み込んで行う開発をいいます。問 2 のご回答では、適用の程度を次の区分で示してください。区分 1：開発者個人の作業支援（コード補完、調査、レビューの補助等）／区分 2：一部の工程の成果物を AI が作成し、人が確認・修正する／区分 3：複数の工程にわたり AI が作業を進め、人は指示・承認・品質確認を担う

問 2★ システム開発案件で AI 駆動開発を適用した実績の有無と、適用した工程、及び当該案件の概要（発注者の種別（公共／民間）、システムの領域、契約金額の規模（1 億円未満／1 億円以上 5 億円未満／5 億円以上 10 億円未満／10 億円以上）、期間、体制規模、貴社の役割）※問 1 でご回答いただいた案件と同一の場合は、その旨のご記載で差し支えありません。

問 3★ AI 駆動開発の導入・実行にあたり実際に直面した課題（技術面、体制・人材面、品質・検収面、発注者との調整面等）と、それぞれに対してとった対応方法及びその結果。現在も解決できていない課題があればあわせてご記載ください。

※問 2・問 3 は、AI 駆動開発の適用実績がある場合にご回答ください（実績がない場合は、別紙 A で「なし」を選んでいただくだけで構いません）。

問 4★ 貴社が AI 駆動開発を推進する手法・体制（開発プロセスの設計、ツール・開発基盤、品質担保の方法、人材・スキル体系等）

問 5 貴社全体で AI 駆動開発に従事できる要員数（社内・協力会社を含む）と、同時に担える案件の最大規模

問 6 体制確保にあたっての再委託・協力会社の活用想定（想定する比率、対象工程、オフショア／ニアショアの活用、活用にあたっての制約）

問 7 JICA の案件で同様の適用が可能か。妨げになる条件（セキュリティ要件、成果物様式、契約方式等）

問 8 複数開発単位の要件定義が並走し、切替時期が集中する計画に対する実行上の制約・リスクと、考えられる対応策

問 9 本構想（統合方針・開発単位・スケジュール・開発方式）に対するその他のリスク・懸念（会計年度単位の予算措置等、公共調達の制度面に起因するものを含む）

問 10 JICA が検討すべき事項についての自由提案

（２）開発単位ごとの設問（別紙 A のシート 5-1～5-6。回答できる開発単位についてご回答ください）

問 11★ 開発単位ごとに、貴社が推奨する実現方式（スクラッチ開発／パッケージ活用／SaaS 活用／組合せ）と、その理由・メリット・デメリット

問 12★ 開発単位ごとの、貴社が参加しやすい形（単独で受注／他の開発単位とまとめて受注／開発単位の一部（機能・工程）のみ／協賛会社として参加）。開発単位の括り方についてご意見があれば、あわせてご記載ください

問 13★ 開発単位ごとの、移行・切替のアプローチ（一斉切替／段階切替の別、並行稼働の要否と期間、データ移行上の留意点）

問 14★ 開発単位ごとに、AI 駆動開発で担う場合に 2030 年度頃までの順次リリース（別紙 6）に間に合うかの見通し（間に合う／条件付きで間に合う／難しい）と、間に合わない場合の目安・条件（必要な期間、前提・要件定義の前に必要な準備・調査を含む）等）

問 15 開発単位ごとの費用の規模感（要件定義～移行、税抜。5 億円未満／5 億円以上 10 億円未満／10 億円以上 30 億円未満／30 億円以上）と、その前提

※問 15 は、別紙 3・別紙 4 などの提供資料をもとにした概算（規模感）で構いません。

問 16 開発単位ごとに想定されるピーク時の要員数と役割構成（プロジェクトマネージャ、アーキテクト、業務設計、開発、テスト等）、及び貴社の他案件と時期が競合した場合の要員確保の可否・供給上の制約

5. 回答にあたっての留意事項

- ・本 RFI への回答は任意です。
- ・回答に要する費用は回答者負担とします。
- ・本 RFI への回答の有無及び回答内容は、今後の調達における評価や参加資格に影響しません。本 RFI は市場調査及び今後の調達方針の検討を目的とするものであり、将来の契約や調達の実施を約束するものではありません。
- ・本件に関する公示等を行う際は、JICA ホームページに掲載するとともに、本 RFI へ回答いただいた事業者には、掲載と同時に、その旨を電子メールでお知らせする予定です（お知らせの内容は、ホームページへの掲載内容と同じです）。
- ・いただいたご回答は、開発単位・スケジュール・契約方式など、事業者が参加しやすい調達の設計の参考にします。
- ・JICA は提出情報を内部検討に利用します。回答内容は原則非公開とします。

- ・回答内容の全部又は一部を JICA が仕様等へ反映する場合には、後日の意見招請・プレ公示その他の公開プロセスを通じて、他の事業者にも公平に情報提供することを原則とします。**この取扱いについては、別紙 A「回答様式」の同意欄で「同意する」を選んでください（本 RFI へのご回答をもって、この取扱いにご了解いただいたものとして取り扱います）。**
- ・ご提出いただいた回答内容について、JICA 及び次期システム構築の検討支援を受託している事業者から追加の事実確認・技術的確認（電子メール又は個別打合せの機会）をお願いする場合があります。
- ・本 RFI に関するやり取りは、原則として電子メールで行います。
- ・提供資料は検討段階の構想であり、今後の検討により変更されることがあります。提供資料の本 RFI 以外の目的での利用・第三者への開示はご遠慮ください。
- ・ご回答に含まれる貴社の秘密情報は、秘密保持契約に基づき適切に取り扱います。

6. 提出方法

- ・提出期限：【2026 年 11 月 13 日（金）17:00 必着】
- ・回答の状況により、提出期限を延長する場合があります。延長する場合は、JICA ホームページに掲載するとともに、秘密保持契約を締結した事業者と同時に電子メールでお知らせします。
- ・提出方法：別紙 A「回答様式」による回答を基本とし、Excel 形式のまま電子メールにて下記提出先へご提出ください。必要に応じて補足資料を添付いただくことも可能です。別紙 A の様式以外の資料（類似事例の紹介、AI 駆動開発の手法・ツール・体制の説明資料、技術資料等）のご共有も歓迎します。既存の資料をそのまま添付いただいて構いません（形式は問いません）。（メール件名：【次期システム構築及び AI 駆動開発 RFI 回答】貴社名）
- ・提出先・問い合わせ先：〒102-8012 東京都千代田区二番町 5-25 独立行政法人国際協力機構 情報システム部 IT 企画課 次期システム構築 RFI 担当、E-mail：istst@jica.go.jp
- ・質問受付：【2026 年 10 月 30 日（金）】まで、電子メールにて受け付けます。別紙 A のシート「6_QA 表」をご利用ください（メール件名：【次期システム構築及び AI 駆動開発 RFI 質問】貴社名）（期限後にいただいた質問には、回答できない場合があります）。ご質問には貴社の秘密情報を含めないでください。ご質問とその回答は、質問者名を伏せたうえで、秘密保持契約を締結した事業者全員へ同時に共有します。ご質問の送付をもって、この取扱いにご了解いただいたものとして取り扱います。

以上